

平成 25 年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

第 2 回理事会

日時 平成 25 年 10 月 31 日 (木)

10 : 00 ~ 12 : 00

会場 みなみのかぜ支援学校

1 開会行事

(1) 会長あいさつ (会長 みなみのかぜ支援学校 田中校長)

- ・ 今回は、夏の研究大会の反省が主な内容となるだろう。来年度は全国大会もあるが、その先も見越した意見をお願いしたい。

(2) 日程説明

2 第 2 回理事会

○ 第 6 回知的部会研究大会反省

- ・ 別紙

○ 平成 27 年度県大会について

- ・ 別紙

○ 平成 25 年度予算案の変更及び中間報告

- ・ 各部会補助金 20,000 → 15,000
- ・ 中間報告

※平成 25 年度宮崎県特別支援教育連合知的障がい教育研究部会 収支予算 (案) 参照

○ 次年度以降の九特連、全特連大会の提案者等について

- ・ 別紙参照

今回、以前に空欄だった部分も埋まってきた。不明な点があれば事務局へ

○ 広報担当より ホームページについて (日向ひまわり)

- ・ 各担当の先生方のレポートをまとめ、知的部会のホームページに掲載中。
- ・ 写真等で不都合な点があれば日向ひまわりへ。

○ その他 (事務局)

- ・ 「宮崎県特別支援教育研究連合」の活動について実践等を紹介している機関誌「セネット」については現在、赤江まつばらが管理しているが、今後、県特研連のホームページで見られるようにしていく方向。
- ・ 知的部会のホームページについては、今後、県特研連とリンクさせていく。

3 閉会行事

(1) 副会長あいさつ

- ・ 現在小中学校で問題になっているのは中学校卒業後の進路。今後、キャリア教育という部分に力を入れていかねばならない。そのような部分も含め、知的部会の存在意義を感じる。
- ・ 小中学校はいろいろな組織に属しているが、受ける所は一つ。特に県特研連と知的部会の整理は必要なのでは。担任の先生方で理解している方は少ないのでは・・・今後整理が必要。

<第6回知的部会研究大会反省>

アンケートを集約した結果、「よかった、ためになった」との感想が9割以上を占めていた。内容や運営面などはおおむね良好だったのではないだろうか。内容としては延岡しろやま支援学校の報告があり、全国大会発表への足掛かりとなったことだろう。参加者からはもっと詳しく聞きたかったとの感想が多くあった。運営面では業務を分担し進めたが、どの業務も大きなトラブルなく、スムーズであったと感じている。しかし会場案内掲示や案内発送などのさらなる工夫や改善が必要とされ、次回開催へと引き継いでいきたい。

<平成27年度の県大会について>

平成27年度の大会については、全国大会終了後提案という形であったが、運営準備期間を考えると現時点から話し合いを経て、練りながら決定していくことが大切であると考え、大会実行委員長より3つの提案があった。(なお県大会の様々な決定については平成26年度第1回理事会総会で提案、協議、決定の方向)

① 大会開催の有無について

- ・ 今回の開催後のアンケートからもその意味と意義は大きくあることを確認。本会が研修の場所を補償していくことは大切な任務である。大会実行委員会としては開催の方向で提案。

② 大会のスリム化

- ・ 昼食の業務や内容の充実など運営担当校の負担を考えるとスリム化も視野に入れて検討する必要があるのではないか。しかし、参加者のニーズは大変高く終日の研修でより専門的なものをという意見もある。また、遠方からの参加者にとって時間にゆとりをもたせることも大切であるとの意見がでた。

③ 運営担当校持ち回り

- ・ 学校規模にもよるのではないだろうか。組織全体を考えて、ローテーションを考えることも大事である。